

今回はNPOセミナーに
参加した学生が
取材・執筆しました。

白梅子育て広場

白梅子育て広場とは、白梅学園大学・白梅学園短期大学の学生が主体となってイベントの企画・運営を行う子育て支援団体です。

イベントは、大学構内で開催される「あそぼうかい」や「あおぞらひろば」といった広場主体のものや、ルネこだいら夏休みフェスタや学園祭での出店などの広場以外が主体となっているイベントに出張して参加するものがあります。

今回は7月22日(土)に開催された「7月あそぼうかい」の様子を取材しました。

7月「あそぼうかい」のテーマは『暑さを吹き飛ばそう！夏を先取り 白梅えんにち』です。これを主軸に、参加者が最初に通る受付では、おばけの形をした名札と共にスイカのバッグを配布し、夏らしさを取り入れました。

製作を行う「せいさくコーナー」では、お面作りとおばけヨーヨーづくりを行い、思いっきり遊ぶ「あそびコーナー」では、金魚すくいやボウリング、射的を用意しました。授乳室や午睡スペースを設けた休憩所の役割を担う「ホットスペース」では、風船マットやプラネタリウムを体験できる空間にし、「あそぼうかい」最後に劇やクイズで楽しむ「おわりのつどい」では、浴衣を着た学生との盆踊りを取り入れ、おばけをモチーフにした劇を行いました。



▲「あそびコーナー」のおばけボウリング

ピンをおばけにするだけでなく、玉に鈴を入れ音が出るよう工夫しました

▼「ホットスペース」のプラネタリウム



子どもが中に入って学生が外から光を当てることにより、カラービニールがキラキラと綺麗に光って見えます

たくさんの方に来場していただき、どこのコーナーでも学生も参加者の方も生き生きと楽しんでいたことが印象的でした。

「あそぼうかい」では、企画や装飾など全てを学生が一から考え、作っています。そのため、一つ一つにこだわりを持ち、0歳～100歳まですべての年代の方が楽しめること、また学生も一緒になって楽しむことを意識し、この活動をきっかけに地域や親子同士のつながりの輪が広がることを願っています。

10月21日(土)、22日(日)には白梅祭(学園祭)にて、「miniあそぼうかい」と「miniホットスペース」という2つの企画で出店します。

「miniあそぼうかい」は21日13:00～16:00と22日10:00～12:00、「miniホットスペース」は21日9:30～16:00、22日9:30～15:00に開催します。また、11月25日(土)に11月「あそぼうかい」、12月16日(土)に一年間の活動を地域の方に向けて発表するシンポジウムの開催を予定しています。

イベント開催日が近くなりましたら予約フォームのQRコードを掲載したチラシの配布を行いますが、すべて予約していなくても参加可能となっております。ぜひ遊びに来てください。(山)

DATA

Instagram ● 白梅子育て広場 @shiraumekosodatehiroba
X(ツイッター) ● 白梅子育て広場 @kosodatehiroba
ブログ ● <http://nanatunohiroba.blog.fc2.com/>
メール ● hirobasidouin@shiraume.ac.jp

ART CAMP VILLAGE in KODAIRA

～小平の可能性を生かし境界線を越境する～

玉川上水緑道を舞台に、普段はそれぞれの場で活動する人たちをつなげ、地域の「人」と「自然」と「アート」がとけあう場を作り出すプロジェクトがART CAMP VILLAGE in KODAIRAです。

今回、ART CAMP VILLAGE 実行委員会の代表である崎谷未央さんにお話を伺いました。

もともと旅行が趣味で、旅行雑誌の編集等、様々な仕事の経験を積んだ崎谷さんは、その後フリーになったタイミングで「こだいら観光まちづくり協会」の立ち上げメンバーとなり、かつての仕事の経験を生かし2年間勤めました。当時から「まちづくりとはどうあるべきか」という考えが根本にあり、「今」があるとのことでした。

ART CAMP VILLAGEが発足したきっかけは「昔はもっと、人・自然・アートは近かったよね?」という疑問からでした。多摩地域の魅力のひとつは、加工せず素材そのまま成り立つような面白さです。しかし、現在、玉川上水は様々な管理下の元で成り立ち、それが境界線となってしまっています。かつてのような原型を楽しみたい——そんな思いから、「境界線を越境するような村を作ろう」という目

▼2022年イベントの様子



代表の崎谷未央さん

標を掲げ、ART CAMP VILLAGEのテーマにしました。

また、ART CAMP VILLAGEではイベント会場のみならず人を集める“点”ではなく、参加した人たちが街に広がり、いろんなお店に立ち寄りたりする「線」づくりを目指してきました。次回のART CAMP VILLAGEではさらに横の繋がりを生み出し、子供だけでなく親ももっと楽しめるようにしたいとのことでした。次回は、来年秋の開催を目標に進行中。

最後に、崎谷さんは「小平には可能性があると思っています。鷹の台を中心に、玉川上水には人と自然とアートを繋ぐような素材が既にあり、我々はそれを“見える化”していきたいと思っています。そして、それがもっと住みやすいまちづくりになる事だと信じています」と話しました。(青)

DATA

ホームページ ● <https://artcamp-village.com/>
メール ● artcampvillage@gmail.com

